

2015年2月の供給レポート

木材の日焼けや変色を防ぐ方法は？



日焼けは一般に淡色の木材は多少濃いめに、濃色の材は薄めに変色（色あせ）します。表面からごく薄い層なので、カンナで削れば元の色が現れます。

日焼けの程度は光の強さや光にさらされる期間によって異なりますが、日焼けを避けることはできません。塗料に紫外線を吸収する成分を含んでいて日焼けを少なくするものもありますが、日焼けを遅らせる効果はあっても、完全に防止することはできません。

外装材に日焼けなどによる劣化を防ぐには、紫外線の遮断のほか、耐候性の高い塗料（外装用塗料）を使い、3～5年ごとに定期的に塗り替える必要があります。

（2015年1月1日 大阪木材仲買協同組合新聞記事から抜粋）

「林業女子」が求めるものは — お金じゃない、貢献したい



総務省によると、林業従事者のうち35歳未満の割合は、2010年時点で18%。10年前と比べて8ポイント上昇しました。若い女性も増えました。

林業従事者の平均所得は、全産業平均と比べ35%低くなっています。

（2015年1月11日 日本経済新聞記事から抜粋）



今月の木の話 — 板目が反る理由

板目板が反る理由は、木の外縁に近いほど収縮率が高くなるからです。

必ず、木表側（丸太の外側）に凹に反ります。

木表側の方が収縮率が高く、木裏側（丸太の内側）の方が収縮率が低いからです。

（日刊木材新聞社発行「今さら人には聞けない木のはなし」より抜粋）

木材の世界ランキング上位5か国

木材生産、中ロ伸びる 住宅着工増が影響、先進国は縮小



主に住宅の建築に使う木材は、中国やロシアなど新興国での生産が伸びています。

中国は、丸太や製材の輸入も世界トップです。

米国とカナダは丸太の生産で1位と2位ですが、この10年で2割以上減らしています。

丸太

	1位	2位	3位	4位	5位
生産量	米国	カナダ	ブラジル	中国	ロシア
輸出量	ロシア	ニュージーランド	米国	カナダ	フランス
輸入量	中国	オーストリア	スウェーデン	ドイツ	インド

製材

	1位	2位	3位	4位	5位
生産量	米国	中国	カナダ	ロシア	ブラジル
輸出量	カナダ	ロシア	スウェーデン	ドイツ	フィンランド
輸入量	中国	米国	日本	英国	イタリア

合板

	1位	2位	3位	4位	5位
生産量	中国	米国	ロシア	ドイツ	カナダ
輸出量	中国	ドイツ	マレーシア	カナダ	インドネシア
輸入量	米国	ドイツ	日本	カナダ	英国

住宅着工の増減率(2012年)

2002年比

中国	276%	住宅着工面積
ロシア	112%	住宅完工件数
米国	-54%	住宅着工件数
日本	-23%	住宅着工戸数
ドイツ	-12%	住宅建設の認可件数
カナダ	5%	住宅着工件数

(2015年1月19日 日本経済新聞記事から抜粋)

世界で土地がやせている？

3分の1が劣化、農業に打撃 山林開拓進み、風雨で流出



土がやせて植物や農作物が育たない土地が増えています。国連は、2015年を土の大切さを訴える年にしました。

※国際土壤年：土壌を大切にすることが、経済成長や貧困の撲滅などに重要だとして、2013年の国連総会で決議。

工業化のために新興国などでは、森林伐採で開発を進めています。山が切り開かれて、直接風雨に土の表面がさらされると、土が吹き飛ばされたり流出したりします。

植物や農作物がよく育つ、養分のある土は、表層から深さ20cmくらい。

世界の土地の約3分の1が劣化傾向にあります。

深さ1cmの肥沃な土を作るには、100年から数百年かかると言われています。

植林や落花生の殻をまくことで草地を回復させることができます。

※不耕起農法：農地を耕さない栽培方法。前に栽培した作物の残りが地表を覆い、風雨による土壌流出を和らげる。

欧米でよくみられる不耕起農法ですが、日本は雨が多いので、雑草が生えて難しい。

(2015年1月24日 日本経済新聞記事から抜粋)

住宅木材 国産が支える — 円安で輸入材値上がり

大手、使用率高める 産地PR、ブランド化も



住宅用に国産の木材を使う動きが広がっています。

円安や米国の住宅着工増で輸入材の価格が上昇しており、用途によっては国産と同じ水準になってきました。国産材だと産地がイメージしやすく、親しみやすさがあるという利点もあります。大手住宅会社が使用率を高めています。

自治体や国の出先機関は、木材のブランド化を進めています。

日本では、大量に植林された木々が伐採期を迎えています。日本の森林資源は2012年時点で49億m³と、1年間に8000万m³ずつ増えていて、その活用が課題。

政府は2020年までに木材の自給率を、2013年の28.6%から50%に引き上げる目標を掲げ、国産材の利用を後押ししています。

国土交通省も、地元の木材を使った住宅の工事費用を一部負担し、国産材の利用を促しています。

(2015年1月27日 日本経済新聞記事から抜粋)

木のぬくもり 校舎包む — 優れた保湿度 ストレス緩和

新設公社の半数、内装材に



木のぬくもりを生かそう。全国の公立学校で鉄筋コンクリート（RC）構造の内装に、木材を使用する公社が増えています。壁や床の表面に木材を張って木造風にしています。各教育委員会は、木材の持つ優れた保湿度や「子供たちのストレスが和らぐ」という効果も期待。こうした動きは国内の林業振興につながるとして、国も後押ししています。

文部科学省によると、RC構造で内装に木材を使用する校舎は、2013年度に新設された校舎1242棟のうち半数を占めました。

愛知教育大学が全国の273校を対象に実施した調査によると、インフルエンザによる学級閉鎖の1年間の発生割合は、非木造は6%なのに、木造は2%でした。

木材には高い保湿度があり、冬でも乾燥しにくく、ウイルスの活動を抑えられるのではないかと分析しています。

埼玉大学の調査によると、木材を使った校舎の方が「耳鳴り」や「目の疲れ」などのストレス反応を訴える児童が少なかったといえます。

結露が少なく、廊下や階段でも快適に過ごせることがストレスを緩和と指摘しています。

文部科学省は、校舎建設に地元産の木材を使う場合は、自治体に支給する建築費の補助額を5%程度上乗せしています。

(2015年1月30日 日本経済新聞記事から抜粋)